



教育センター・育成センター所報

GALILEI



オープニング実験ショー



シラスふしぎ発見



小野寺博士の秘密の実験ショー



にぎわう会場(新潟工科大 講堂)



★  青少年のための科学の祭典 2015 柏崎刈羽大会 11月21日(土)会場:新潟工科大学



CONTENTS

○今月の巻頭言…………… P 1

★自分のことが好きですか？

柏崎市教育委員会
委員 長澤 弘樹

○教育センターだより…………… P 2

★アクセス(教育研究班)…………… P 2

★プロジェクト K(科学技術教育センター)…………… P 4

★心の窓(教育相談班)…………… P 8

○青少年育成センター通信…………… P 9

○1月の行事予定表…………… P 11

○所員随想「つれづれ」…………… P 11

★方向音痴の頭の中 教育相談班 相談員 鈴木 皓子

平成27年12月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

自分のことが好きですか？

柏崎市教育委員会

委員 長澤 弘樹



「自分のことが好きですか？」そう聞かれたら、あなたならどう答えますか？私なら返答に困ってしまいます。それが何故かといえば「自分はこれでいいんだ」と思えず、自分の本心と違うことばかりしているからです。

私には、2人の子供がいます。親である私が自分自身に納得できていないのに、子どもたちには良い子であってほしいと望んでいます。私が求める良い子像は、親が言う前から、親が願っていること、望んでいることをちゃんと察知してやれる子です。しかし、親が望めば望むほど、子どもは良い子でありたいと演じ続けるような気がします。とすれば、これはご苦労なことです。あっちでは良い子をしているけれども、こっちでは手を抜いている子もいれば、あっちでもこっちでも良い子でいる子は、もうクタクタになってくるのではないのでしょうか。そうすると子どもたちは、自分を自分で好きになれなくなる。その結果、なんとも言えない攻撃性をもつこともある。今、自分が生きている意味を考えたとき、非常に暗くなり意味を見つけられなくて辛くなる。また、将来に何も明るいものが見えてこないという喪失感が生まれる。つまり、私がない状態になってくるのだと思うのです。

平成9年、神戸で14歳の少年が連続で事件を起こしたとき、「透明な存在」という言葉がよく話題になりました。「透明な存在」ということは「私」がない存在です。私の存在というものが肯定されていない状態です。誰からも、「私がここにいる」ということを認識されていない。まるで周りの人に「私がここにいない」かのごとく振る舞われたときに、自分であればどのような気持ちになるかということです。こういうことが、いま日本中の小学校や中学校の中で実際に起きています。子どもたちは、「自分の居場所がほしい」と強く思っているのです。子どもたちをそこまで追い込んだのは、まぎれもなく大人たちです。大人たちが、「自分の都合に合う子」を「良い子」として、そういう子を求めてきたからです。暑いのが嫌、寒いのが嫌というように、やんちゃな子や自分の意に添わない子は嫌だと思ふ癖が大人たちにはついていて、子どもの本質も見抜けないまま、大人の意見を押し付けている。それが現状です。恥ずかしながら私もその大人の1人です。冒頭で述べたように、分かっているながら自分の本心と違うことばかりをしてしまう私がいるのです。ですから、「自分はこれでいいんだ」と思えないのです。

「自分を見失っている子どもたち」が増え続けるその根っこには、「自分を見失っている大人たち」がいます。根っこが育っていなければ、実が育つはずがないのです。しかし、根っこが実を育てていると思っているのなら、それは思い上がりだと思います。根っこは実、幹や枝を通じ、共にお育てをいただいている1つの樹木だからです。

子育て・親育ちの真最中です。日々色々な心の葛藤がありますが、子どもと共に育っていきたいと思います。

■研修講座

Most(モラルスキルトレーニング)を取り入れた道徳授業の提案

◆11/27（金）道徳授業づくり講座②心に響く道徳授業公開と元気の出る協議会

講 師：上越教育大学副学長 林 泰成 様

授業者：田尻小学校 近藤 多計夫 教諭

この講座では、田尻小学校を会場に、まず、近藤先生から道徳授業「もっと、すてきな、友達に」を公開していただきました。このタイトルは林先生が提唱されている「**モラルスキルトレーニング**」の頭文字から近藤先生が設定したもので、3時間の単元構成の中の一時間でした。

授業では、「なわとびをかしてほしい」と頼まれた時の「断り方」について、どんな言い方がよいのかをロールプレイを通して考えていく内容でした。その際、相手の気持ちを察していく場面があり「考えて」「行動することの大切さ」を実感する授業でした。

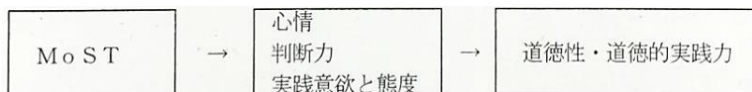
また、その後は4人程度のグループに分かれ、ねらいに向かって効果的だったこと」「代案」「授業者がこれまで育ててきた児童の姿」の3点を出し合う協議会を行いました。

この講座では、授業および協議会後の参加者の主な感想は下記の通りです。

- モラルスキルトレーニングの単元化を図って、友だちとのよい関係づくりを考えていく実践授業を学びました。ロールプレイングを恥ずかしがらずにやっているあたたかい授業の雰囲気、普段の学級経営の賜物と思います。道徳的価値を学んでも実践化されない悩みを解決するのに Most が生かせそうです。勉強したいと思いました
- 協議会でたくさんの意見が出たのでとても刺激になりました。モラルジレンマとモラルスキルとまた違うということが分かり、SST とうまく使い分けしながら実践していきたいと思いました。SST だけではなく、そこに道徳的価値を付加することを意識しながら授業を創っていききたいと思いました。

後半は、林先生による、これからの道徳教育のあり方についての講義でした。道徳教育で実践力を重視していくことの重要性を説明されました。また、会話が入っていない絵本を紹介、参加者とともに、どんな言葉がやりとりされているのか、想像力を働かせながら考える場面もありました。

さらに、下図を用い、モラルスキルトレーニングと、意欲と態度、実践力をわかりやすく説明されながら現場での道徳教育の活性化を望んでいらっしゃいました。（当日資料より）



参加者の主な感想は以下の通りです。

- 林先生のご指導が大変勉強になりました。「道徳的価値を教える」という原点を学びました。スキルのみの習得だけでなく道徳性の発達も促すことの重要性が学びました。
- 扱う道徳的価値を明確にした上で授業を構成し、実践力につなげていくことが目的で、その目的のために Most（モラルスキルトレーニング）も一つの方法である、という考え方がとてもわかりやすかったです。道徳的価値について、授業のねらいのようにしぼり込み強く意識していきたいと思いました。



授業をする近藤多計夫先生



講義をされる林泰成 上教大副学長様

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆コンテンツサーバ(教育委員会資料)

登録日	資料名
12/1	ALT News Letter 第 43 号
12/14	ALT News Letter 第 44 号

■ 情報関連講習会のご案内

1 月に実施される講習会

◆H28.1.20(水) デジタルビデオ編集入門

Windows7 で利用できる WindowsLive ムービーメーカーと WindowsDVD メーカーを使って、デジカメやムービーカメラで撮影した映像の簡単な編集手順、DVD への書き込み手順を学習します。WindowsXP の頃のムービーメーカーに比べ、機能がかなり簡素化されていますのでご了承ください。



◆H28.1.27(水) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その9

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

◆H28.1.29(金) デジタルアルバム作成入門

デジタルカメラで撮影した画像を使って、CD や DVD にデジタルアルバムとしてまとめる手順について学習します。Windows Live ムービーメーカーおよびフォトストーリーで実施します。写真に動きや切り替え効果を与え、BGMなどを付加してムービーとして仕上げ、それを DVD に書き込むところまでを扱います。



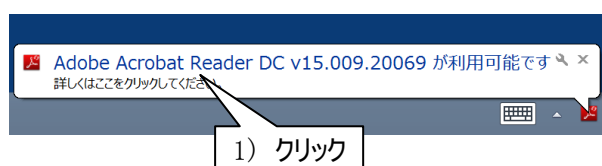
■ セキュリティ情報

セキュリティホール情報

マイクロソフトより、12月9日付で12月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が8件、「重要」が4件です。まだUpdateが済んでいないようでしたら、至急Windows Updateなどを実施していただくようお願いします。

Adobe Reader Xのサポートが終了しました

Adobe Reader のバージョン X のサポートが2015/11/18 で終了になりました。通知領域に以下のようなメッセージが表示されていたら、クリックして新しいバージョンをインストールしてください。



2015 科学の祭典（秋）柏崎刈羽大会

☆ご協力・ご来場ありがとうございました。

11月21日（土）、科学の祭典を新潟工科大学で開催しました。地域の企業の方、新潟工科大学・柏崎工業高校・東中学校科学部の学生・生徒さん、柏刈地域の教職員の皆さんからご協力いただき、無事終了することができました。今回の科学の祭典は、新潟工科大学の「まなびや見学会」と同時開催であったため、講堂・大学院棟に会場を移してブースを開きました。人気の高い「カラフルスライム」、「アイスクリームをつくろう!」をはじめとする14のブースと「光る LED 星座盤」などのチャレンジ研究室3ブース、合わせて17ブースを用意しました。例年の秋の祭典では、2000人を越えない来場者数ですが、今回は約2500人という多くの来場者を迎えることができました。多くの方に参加していただくことができ、大変感謝しております。子どもも大人も目をキラキラさせながら、さまざまなブースで科学工作・実験・観察を楽しみました。25回目を迎えた科学の祭典が、地元の理科的行事として定着し、子どもたちの理科への興味・関心を育ててきたこと、様々な立場の方々が力を結集して一つのイベントを盛り上げてきたこの活動の良さと伝統を感じました。

スタッフとして柏崎刈羽の児童生徒の「理科を楽しむ心」を育て、目を輝かせてはみませんか？ぜひ、来年度も科学の祭典にご協力をお願いします。ブーススタッフとして参加することで、心の中に温かい何かが残る体験ができること間違いなしです。この活動を通して中学生、高校生、大学生、大人の輪が広がっていくことを願っています。

子どもたちの感想（来場者アンケートより）



光と放射線の不思議

「光と放射線の不思議がとても分かりやすく、放射線のことを知ることができました。」

「シラスの中からいろいろな生き物がたくさん発見できて楽しかった。」

「普段できない実験や体験ができてとてもよかった。」

「実験が好きなので、またやってみたいです。（次回を）楽しみにしています。」

保護者の感想（来場者アンケートより）

「初めて来ました。科学実験を子どもにもっとさせてみたいです。」

「子どもが喜んでいたので良かったです。毎回楽しみにしています。」

「定期的にやってくれるのがうれしい。次回も楽しみにしています。」

「子どもを連れてきているのですが、大人も楽しめているので良かったです。」

子どもも大人もともに楽しんだという感想をたくさんいただきました。次回の春の祭典も盛り上げていきたいと思えます。皆様のご協力をぜひお願いいたします。



光のたまご

☆ 科学の祭典 活動の様子

チャレンジ研究室



ようこそ！もやしもんの世界へ



光るLED星座盤



宇宙で活躍！ロボットアーム

一般ブース



アイスクリームをつくろう！



挑戦してみよう電子オルゴールの制作



石が変身！！石のクラフト



キャンドル作り



こどもパソコン IchigoJam



いろいろ体験コーナー



飛ばそう！わっかプレイン



カラフルスライム



電車でGO！線路を楽しむ！電車を楽しむ！



出張！いきもの探てい団



シラス ふしぎ発見



再生可能エネルギーってなんだろう？

来年度も春・秋の開催を予定しています。お楽しみに！



【研修会・事業の様子】

○ プラネタリウム操作技能習得講座③

◇日 時 11月28日(土) 16:00～
◇場 所 柏崎市立博物館
◇内 容

博物館にあるプラネタリウムの投影技術を身に付け、子どもたちや市民に向けて、星空解説ができるようになることを目的として行いました。3回目となりましたが、初参加の方もいましたので、ドーム内の照明、恒星、夕焼け、星座絵などの投影から行いました。講座①、②を受講されていた方は天文シュミレーションソフト「mitaka」の操作講習を行いました。新たな知識・技能を習得し、星空解説の幅を広げることができました。



mitaka を体験中の受講者。

○ 上越の理科を語る会

◇日 時 12月5日(土) 14:00～
◇場 所 上越市 高揚荘
◇内 容

上越教育大学に今年赴任された小川佳宏准教授から、専門分野である「光の波動性と粒子性」について講演をしていただきました。理科に興味をもつ多くの先生方にぜひ聞いていただきたい、興味深いお話でした。



<要請研修・研修サポート>

○ 内郷小 放射線教育

◇11月26日(木) 実施

3年生と6年生でそれぞれの学年に合わせた放射線教育を行いました。いずれの学習もキーワードは「正しく知って、正しく怖がろう」です。3年生では、身近なところにも放射線が存在していること、放射線からの避難の仕方を中心に学習しました。6年生では放射線の特徴や歴史、そして放射線からの避難の仕方を学習しました。正しい知識をもって判断し、自分の命をしっかりと守ろうと学習をまとめることができました。



ベータちゃんで放射線の量を測定しました。

○ 柏崎特別支援学校 放射線教育

◇12月7日(月) 実施

中学部と高等部で放射線教育を行いました。メインティーチャーは支援学校の先生が務め、教育センタースタッフは技術面をサポートしました。放射線の存在を確かめるために、霧箱と放射線測定器で実習を行いました。条件に恵まれたので、霧箱の中で、放射線の跡をはっきりと観察することができました。また、放射線測定器で様々なものから放射線が出ていることを確かめることもできました。



霧箱で放射線の跡を観察しました。

【1月の研修会のご案内】

○ 教職員理科研究発表会・理科師範授業&講演会

- ◇日 時 1月14日(木)
 ◇会 場 柏崎小学校
 ◇講 師 筑波大学附属小学校 教官 佐々木 昭弘 様
 ◇日 程 (予定)



9:30 ~9:45	9:45 ~9:55	10:00~12:20	12:20 ~13:35	13:35~14:20	14:20 ~14:35	14:35~14:45	14:45~16:15	16:15 ~16:30
受付	全体 開会式	柏刈地区 教職員理科 研究発表会	昼食 休憩	公開師範授業	休憩	講演会 開会式	ご講演	閉会式

◇内 容

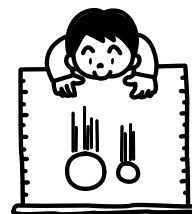
学校研科学教育部との共催事業です。

午前中は、8名の先生方から理科の実践発表をしていただきます。これからの理科指導の参考になること間違いなし。身近な素材を活用した実践発表を楽しみにしててください。

午後は、昨年度好評だった筑波大学附属小学校の佐々木先生から、小学3年生「明かりをつけよう」の単元の師範授業をしていただきます。その後の講演会では「子どもの『意味理解志向』に応える理科授業」の演題で、授業を振り返りながら講演をしていただく予定です。ぜひとも多くの先生方に参加していただき、理科の楽しさを味わってほしいと思います。また、佐々木先生を囲んでの懇親会も予定しています。ご都合のつく方はぜひ佐々木先生と談議を楽しんでみませんか。

○ 小3「ものの重さと体積(かさ)」

- ◇日 時 1月19日(火) 15:00~16:45
 ◇内 容

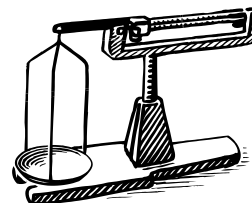


子どもの立場になって実際に実験してみると意外と面白い(難しい)」と感じる単元です。「直接比較」から「間接比較(数値比較)」へ移行しながら進めることが大切であり、それらの留意点やポイントについて研修します。身の回りにあるものを利用して体感することで、ものの形と重さ、体積と重さの関係の理解を図る学習のあり方について考えましょう。

連絡

☆冬休み中にセンターの備品整理を行います。センターから借りた物品のある学校は、ご返却をお願いします。また、理科主任の先生方も学校の準備室をすっきり整理して、気持ちのよい理科室で新年を迎えましょう。

☆学校研科学教育研究部に所属している先生方へ連絡です。「現場が生んだ理科指導上の工夫」第44集の原稿提出締め切りが近づいてきました。締め切りは平成28年1月15日(金)です。今年度から提出方法が変わりました。各校に配布される案内に従い、共有フォルダへ保存してください。日々の実践のちょっとした工夫がたくさん集まるといいなあと思います。よろしくお願いいたします。



心の窓

No.196

〒945-1355
柏崎市大字軽井川4803-2
TEL 0257(23)4591 (代表)
FAX 0257(23)4610
E-mail soudan@kenet.ed.jp

☆ふれあいルームより☆



『ふれあいルーム陶芸展』を開催

10月から11月にかけて全3回の陶芸教室で作った作品を教育センター玄関ホールに展示しました。今年は参加人数が少なく心配されましたが、数は少なくても力作ぞろいです。ぶどうやスイカをかたどった作品や使いやすさを考えた作品など、とても見ごたえがあります。研修などで来所した方々の目を楽しませてくれています。

小さなクリスマスツリー作り

12月に入り、街中ではクリスマスに向けた飾りつけやイルミネーションが目立つようになってきました。ふれあいルームでも12月4日に通級生のみなで小さなクリスマスツリーを作りました。



材料は松ぼっくりや木の実、ドングリ、紙コップなどです。須藤指導員の説明のもとに各々が材料を選んで飾りをつけていきます。



家から材料をもってきた通級生もありました。男女学年関係なく時間が経つのも忘れて、黙々と小さな世界を作り上げていきます。どれもその子らしい個性的なツリーがたくさん出来上がりました。小さなツリーですが完成品をみんなで眺めているととても温かい気持ちになってきます。小さなツリーは各々が家に持ち帰って飾ることになっています。クリスマスまでの期間、それぞれの家庭を温かい雰囲気の中で包んでくれることでしょう。
(ふれあいルーム指導員 寺澤 朋法)



教育相談班 1月の予定

《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

- 8日(金) 16:30~17:30 小学生Aグループ
- 15日(金) 16:30~17:30 小学生Bグループ
- 22日(金) 16:30~17:30 小学生Cグループ
- 28日(木) 18:30~20:00 中学生第1グループ
- 29日(金) 18:30~20:00 中学生第2グループ



《ふれあいルーム》

- 7日(木) 後期後半通級開始
- 12日(火) ソフィアセンター
- 14日(木) スケート教室 ②
9:30~11:30 アクアパーク
- 28日(木) ヨガ教室

育成センター通信

0856

柏崎市青少年育成センター

〒945-1355 柏崎市大字軽井川4 8 0 3 番地2

TEL0257-20-7601 FAX0257-23-4610

ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

市民からの発信「メディア共同宣言」に向けて

子どもとメディアを考える会（市P連などで関係5団体で構成）では、10年以上前から「メディアの子どもに対する影響」について調査・研修を行ってききましたが、家庭や学校でのルールづくりだけでは防ぐことができないことに着目して地域でのルールづくりに取り組んでいます。

各団体内で理解を深める資料として、育成センターから以下の4点を提供しました。A4サイズ1ページという制約の中ですので言い尽くすことができていませんが、話し合いのきっかけとして使っていただきました。

I マナーを守り、危険性についても知る

大人が変われば子どもも変わります。

子どもたちにマナーを説くには、大人が手本を示さなくてはなりません。

「公共の場での通話を控える。歩行中・運転中の操作はしない。」「会話の途中でスマホ画面を見ない。」といった公共のマナーを率先して示します。

ネットのことは、「子どもの方が良く知っている」では済まされません。

利便性だけでなく、メディアに潜む危険性についても、保護者が知っていなければ子どもたちを守ることができません。メディアが悪いわけではありません。使い方を誤ったときの危険性、悪用する者がいることの危険性などを知り、子どもたちを守りましょう。



最近、学校では、積極的に情報モラル教育に取り組んでいます。しかし、大人（保護者）は情報モラル教育を受ける機会のなかった人が多数派です。各団体の話し合いの中でも、珍マナーが続出しました。

II 家庭内ルールが必要な訳

子どもは成長とともに様々なことを学びますが、マナーを無視したネット上のトラブルは取り返しのつかないことが多々あります。そうなる前に教えなかった保護者に責任があることは間違いありません。

子どもに、メディア機器を与えるときは、必ず親子間でよく話し合いましょう。

一方的に押し付けられたルールは長続きしません。

ルールの例 （ ）内のカテゴリーごとに話し合いをするとよいでしょう。

- ・食事中や歩いているときにはスマホは使用しない（マナー）
- ・毎月の利用料金を親子で確認する（金銭感覚）
- ・一日の内の使える時間帯を決める（時間管理）
- ・うわさ話など自分がされると嫌だと思えることは書かない（コミュニケーション）
- ・他人を中傷する内容をメールやメッセージは書かない（法律）
- ・やるべきことを優先する（役割・責任）
- ・IDやパスワードを安易に人に教えない（自己防衛）

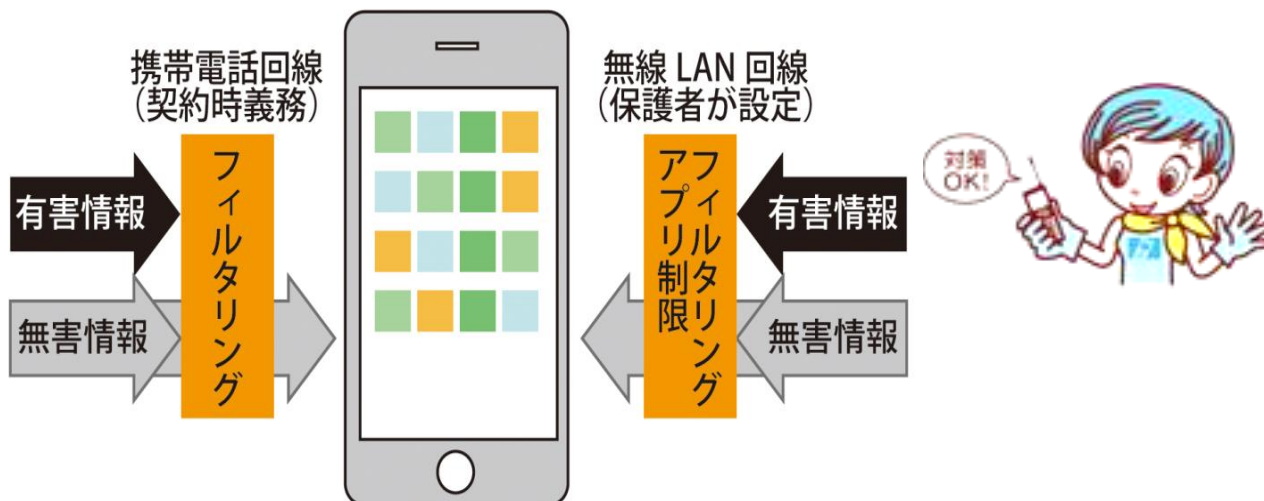


言うは易し。反抗期に入った子どもとルールを作る（話し合いをする）ことは、そんなに簡単ではないと考えている保護者も多くいます。責任を放棄しないで頑張ってください。

ネット被害者の95%がフィルタリング未設定

スマホのWi-Fi（無線回線）には、フィルタリングが設定されていません。「Wi-Fi」でも有効になるフィルタリングソフトをインストールし、さらに、フィルタリングを回避するアプリの対策に「アプリのダウンロード制限」も行いましょう。

設定方法の詳しくは、購入した販売店にお尋ねください。



子どもが利用する*SNS やスマートフォンの利用データを分析して「いじめ」などの危険の兆候を知らせてくれる「見守りアプリ」なども活用して問題の早期発見に努めましょう。

* SNS＝日記やメッセージなどを通じて友人や知人・共通の趣味を持つ人たちとの交流を目的としたサービス。Facebook、Twitter、LINE など多数のサイトがある。

新潟県青少年健全育成条例では、保護者にフィルタリングサービスを利用することを求めています。子どもの言いなりにフィルタリングをはずすことは危険です。ゲーム機や携帯音楽プレーヤーなどのネットに接続できる機種もフィルタリングを行う必要があります。

IV 夜間の発信は、相手を気遣って

夜間の電話は、非常識と思う人がほとんどなのに、SNSの世界では相手の都合も考えないで発信してしまう人がいます。

相手が読んだこと「既読」が分かるアプリでは、すぐに返信しないといけないと考える人が大勢います。返信に気を取られていると、学習時間や睡眠時間に支障が出てしまいます。

この問題は、家庭内ルールだけでは解決できない面があり、地域全体でルールを確立していくことが必要です。

子どもたちの学習時間や睡眠時間を考慮すると緊急時などの場合を除いて、次の時間には、メールやラインなどの発信は控えるようにしましょう。

- ◆小学生は、午後8時以降、中学生は、午後9時以降、高校生は、午後10時以降
- ◆大人も、もちろん夜遅い時間での発信は控えましょう。

時間は、目安として示したものです。子どもたちの睡眠時間は、必要とされる時間よりも1～2時間少ないという実態があります。夜間の発信で迷惑を受ける人もいます。自分と友だちの大事な時間を奪っていることに気付かせるような話し合いを心がけることが大事です。頭ごなしの押し付けは、理解の妨げになります。

1月の行事予定表		
日	曜	研修・行事・会議
1	金	元旦
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	ふ:後期後半通級開始
8	金	相:いろいろ体験グループ小A 16:30-
9	土	
10	日	
11	月	成人の日
12	火	ふ:ソフィアセンター10:00- 育:育成委員会役員会18:30-
13	水	
14	木	科:理科教員研究発表会・師範授業・講演会(柏崎小) ふ:スケート教室②9:00-11:30アクアパーク
15	金	研:英語教材研究 相:いろいろ体験グループ小B 16:30-
16	土	
17	日	
18	月	相:班会議13:00-
19	火	研:社会科教材研究 科:小3「ものの重さと体積(かさ)」
20	水	情:デジタルビデオ編集入門13:00-
21	木	研:特別支援学級経営の基礎基本③
22	金	研:算数・数学教材研究 相:いろいろ体験グループ小C 16:30-
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	研:学校支援地域本部事業研修会(アルフォーレ)14:30- 情:フリーQ&A
28	木	研:生徒指導体制の構築 ふ:ヨガ教室10:00-11:30 相:いろいろ体験グループ中① 18:30-
29	金	研:スキー講座(高柳ガルススキー場)14:20- 情:デジタルアルバム作成入門 相:いろいろ体験グループ中② 18:30-
30	土	研・育:メディア共同宣言(中学生・大人)発表、遠藤美季さん講演会
31	日	
研・教育研究班 科・科学技術教育 相・教育相談班 ふ・ふれあいルーム 情・情報教育研修 育・育成センター		



所 員 随 想

方向音痴の頭の中

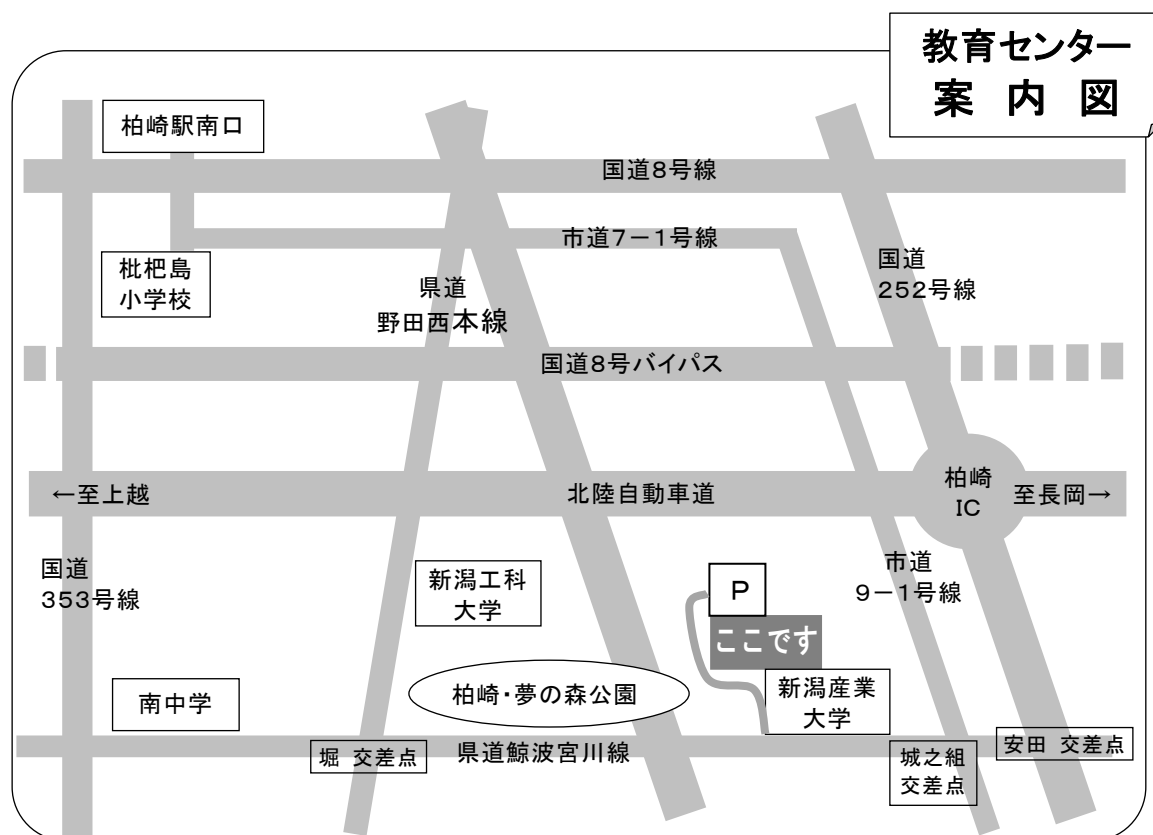
教育相談係 相談員 鈴木 皓子

私は方向音痴です。地図を確認したはずなのに、選ぶ道はなぜか別方向ですし、一度建物に入って再び同じ出入口から出てきたとしても、今自分が来たのは右だったか左だったかわからなくなりますし、都会の広い駅構内で自分が荷物を預けたコインロッカーに辿り着けず、小一時間彷徨ったこともあります。初めての場所に出掛けるときは、「道に迷う時間」を目的地までの所要時間に含めて考えます。

改めて方向音痴について調べてみると、『方向音痴に共通する「性格」ってある?』という、方向音痴の特徴的な思考がいくつか挙げられているネット記事が目にとまりました。○間違えた気がしても、引き返してさらに間違えそうで、そのまま突き進む。○「500メートル先を右折」に対して、結構歩いたけどまだ500メートルじゃない?まだ真っ直ぐでいいの?と不安になり、勝手に曲がる。○意味不明のところでショートカットし、迷う。などなど。

方向音痴の自覚がありながら、なぜか曖昧で無根拠な自分の感覚に従って、案の定迷うという感じがすかね。うーん、共感。どれも身に覚えがある…。

最近は便利な世の中になり、車にはカーナビがついていますし、いつでもどこでもスマホで地図が確認でき、さらには現在地までわかるようになりました。私はもっぱらこの文明の利器に頼りっきりです。……これだから一向に道を覚えないし、方向音痴が治らないのでしょうね。



〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

教科書センター利用案内

柏崎刈羽の小・中学校で使用している教科書のほか、全教科書会社の小中学校の教科書各2冊、高等学校の教科書各1冊を備え付けています。どなたでも閲覧することができますほか、小・中学校の教科書は貸し出しも行っています。

教育センター研修講座等のついでや、冬期休業期間など、お気軽にご利用ください。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.lg.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（いじめ不登校電話相談）

TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成27年12月発行